

審査意見への対応を記載した書類(6月)

(目次)観光学部 観光学科

1. 養成する人材像、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。)について、以下の点を明確にするとともに、必要に応じて適切に改めること。なお、養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの整合性については、対応関係が明確になるよう、具体的に説明すること。

(1)設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「①-2 観光学部を設置する理由・必要性」の「(6)医療分野の人材を育成してきた本学が観光人材を育成する背景(これからの観光専門職には医療や介護に関する知識が必要であること)」においては「旅行中の怪我や病気、持病等への対応など医療に関するリスクは最大の心配事であり」、「観光関係者はそれらのリスクへの第一的対応に関する知識技術が不可欠である」と説明がされている。しかしながら、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにおいては、医療や介護に関する「知識」についての記載はあるものの、「技術」についての記載が見受けられず、本学部の設置目的が、医療や介護に関する「知識」のみを身に付けている人材の養成であるのか、「知識と技術」を身に付けている人材の養成であるのか判然としない。このことから、養成する人材像やディプロマ・ポリシーが妥当であるとは判断できない。このため、本学部の養成する人材像に求める知識・能力に、医療や介護に関する「技術」を含むのか否かを明らかにした上で、ディプロマ・ポリシーや補足説明等の関係箇所を含めて、必要に応じて適切に改めること。

(2)(1)のとおり、養成する人材が身に付けるべき資質・能力が判然としないため、ディプロマ・ポリシーの妥当性やディプロマ・ポリシーとの整合性を判断することができない。このため、(1)への対応を踏まえた上で、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3)(1)及び(2)のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として妥当なものであるかを判断することができない。このため、(1)及び(2)への対応を踏まえた上で、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・5

2. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料4「観光学部観光学科カリキュラムマップ」において、ディプロマ・ポリシー5「医療と介護に関する基本的知識」に対応すると示されている発展科目群の「ヘルスツーリズム領域」の授業科目は、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーを踏ま

えると主要な授業科目を含んでいるものと見受けられるが、本領域の授業科目は、「ヘルスツーリズム概論」を除き、兼任・兼任教員が担当することとなっている。また、基盤科目群と基幹科目群について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「④-1教育課程の編成・実施の方針」において「2年次を中心(一部1年次、3年時開講科目を含む)に、社会学の基礎概念を理解すると共に、観光学の共通基盤を体系的に身につけることを目的とした「基盤科目群」「基幹科目群」を配置している」と説明がされており、観光学に関する共通基盤を学ぶこれらの科目も主要な授業科目であると見受けられる。しかしながら、大部分の科目を兼任・兼任教員が担当することとなっていることから、令和4年改正前大学設置基準第10条に定める「教育上主要と認める授業科目については原則として専任の教授又は准教授に・・・担当させるものとする」規定を満たしているか疑義がある。このため、これらの授業科目について、教育課程における主要な授業科目に該当するものを、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーとの関連や整合性の説明を含めて明確にした上で、当該授業科目について教員配置の妥当性を説明するとともに、必要に応じて教員配置を改めること。(是正事項)・・・7

3. 専任教員のうち、所属する校地が宮古島キャンパスである教員が3名となっているが、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑤-2履修指導方法」において「キャンパス内に設置する学生寮にはほぼ全員が居住する(宮古島出身者は希望者のみ入居)という教育環境を活かし、宮古島キャンパスに配置する3名の専任教員が個々の学生に頻りに接触し履修指導を徹底する」と説明されていることから、教員数に対し学生数が多く、専任教員による履修指導が適切に実施できるかについて疑義がある。このため、計画している教員配置で学生への適切な教育指導対応を行うことができることについて、履修指導のスケジュール、教員の研究活動の観点を踏まえつつ明確に説明するとともに、必要に応じて教員配置を適切に改めること。(是正事項)・・・9
4. 専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項)・・・11
5. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。(是正事項)・・・14
6. キャンパスの整備状況について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑩-2 校舎等施設の整備計画」において、宮古島キャンパスは旧城辺中学校校舎を改修し、尼崎キャンパスは旧若葉小学校校舎を改修し整備することが示されているが、これらの改修や整備が、本学部開設前までに完了するものであるのか、開設後も段階的に整備を行うものなのか判然としない。「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用 改正前基準)」の P119 にお

いて、新たに大学等を設置する場合の校舎等の施設及び設備を段階的に整備する場合には年度ごとの整備計画の記載を求めていることから、本学科の開設後に校舎等の施設及び設備を段階的に整備する場合には、整備開始から完了までの工程表を示し、初年度から問題なく運営が可能であることについて具体的に説明すること。また、宮古島キャンパスの学生寮について、図面がなく、100人の学生が支障なく学生生活を送ることが可能であるか判断できないため、当該キャンパスの学生寮の図面を示しつつ、学生生活に支障がないことについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・15

7. 改正前の大学設置基準第36条第1項に定める、専用の設備を備えた校舎を有するものとされる「学長室」について、校舎図面では備え付けられていることが確認できないことから、「学長室」が本学に備えられていることについて明確に説明するとともに、適切に改めること。ただし、特別の事情があり、かつ教育研究に支障がないと判断する場合には、当該事情や判断理由について説明すること。(是正事項)・・・18

8. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第9号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)・・・19

9. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の①-3(2)「養成する人材像」において「国や地域、文化等、あらゆる背景を持った多様な人々に対する高いコミュニケーション能力」や「観光分野でこれから益々重要となる医療及び介護に関する知識」を掲げていることを踏まえれば、外国人観光客に観光中の健康リスクが生じた場合に、医療機関と外国人観光客をつなぐことができる程度の医療に関する英語力や基礎的な医療英語が求められることも想定される。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「④-1 教育課程の編成・実施の方針」の「CP3 実践的で高い英語力の育成」において、関連科目として示されている英語に関する授業科目には、医療機関と外国人観光客をつなぐことができる程度の医療に関する英語力や基礎的な医療英語に関係する授業内容が見受けられないことから、本学に観光人材を養成する学部を設置する背景や目的を踏まえ、養成する人材像に必要と考えられる医療に関する英語力や医療英語を学ぶ授業内容を設けることが望ましい。(改善事項)・・・20

10. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項)・・・21

11. 事務組織について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑬-4事務組織体制や学生の厚生補導を行うための組織」において「大学各キャンパスの統括は宝塚市にある既存の事務局が行う事とするが、遠方である宮古島キャンパスでは事務対応の即応性を担保するため、事務長を配置し、責任体制を明確にすると共に、業務分掌規程に基づく適切な業務分担を行う」と説明されているが、宮古島キャンパス専任の事務職員数、業務内容が明らかでなく、事務体制に

支障がないかを判断することができないことから、宮古島キャンパスの事務組織について明確にした上で、適切な事務体制が確保されていることを説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(改善事項)・・・22

12. 本学部のカリキュラムが学士(観光学)を与えるに相応しい体系性を有していること、また、本学部において、観光専門職として必要な医療及び ICT・AI の基礎的知識をどの程度を求めているのかに関する説明の追記。(審査意見以外による補正事項)・・・24

13. 「中期インターンシップ」はディプロマ・ポリシー6「観光専門職としての実践的能力(状況への対応力を兼ね備える)」を修得するのに重要な授業科目として位置づける。(審査意見以外による補正事項)・・・30

14. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)「④-2 教育課程の編成の体系性」の「(1)基礎教育科目」において、ディプロマ・ポリシー4「人々が織りなす現実の社会について幅広い知識の獲得と理解」に対応するカリキュラムである「教養教育科目群」について、「社会を構成する諸領域の中でも「観光」と密接な関係にある「文化・表象・宗教」「地域社会」「グローバリゼーションとエスニスティ」分野を中心に、1～2年次に23科目44単位を配置する。幅広い教養を身につけるという観点から必修科目は設定せず、すべて選択科目とする。」と説明されているが、当該領域における履修要件の説明が不十分であったことから説明を追記する。(審査意見以外による補正事項)・・・34

15. アドミッション・ポリシー「AP5 (外国人留学生)外国籍を有し、外国において日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者で、上記 AP2～4 に加え、本学部での学修に必要な日本語能力を持つ者【知識・技能】」としているが、外国人留学生においてどのようにして基礎学力を担保しているかについて説明を追記する。(審査意見以外による補正事項)・・・36

(是正事項)観光学部 観光学科

1. 養成する人材像、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。)について、以下の点を明確にするとともに、必要に応じて適切に改めること。なお、養成する人材像とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの整合性については、対応関係が明確になるよう、具体的に説明すること。

(1) 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「①-2 観光学部を設置する理由・必要性」の「(6) 医療分野の人材を育成してきた本学が観光人材を育成する背景(これからの観光専門職には医療や介護に関する知識が必要であること)」においては「旅行中の怪我や病気、持病等への対応など医療に関するリスクは最大の心配事であり、観光関係者はそれらのリスクへの第一次的対応に関する知識技術が不可欠である」と説明がされている。しかしながら、養成する人材像やディプロマ・ポリシーにおいては、医療や介護に関する「知識」についての記載はあるものの、「技術」についての記載が見受けられず、本学部の設置目的が、医療や介護に関する「知識」のみを身に付けている人材の養成であるのか、「知識と技術」を身に付けている人材の養成であるのか判然としない。このことから、養成する人材像やディプロマ・ポリシーが妥当であるとは判断できない。このため、本学部の養成する人材像に求める知識・能力に、医療や介護に関する「技術」を含むのか否かを明らかにした上で、ディプロマ・ポリシーや補足説明等の関係箇所を含めて、必要に応じて適切に改めること。

(2) (1)のとおり、養成する人材が身に付けるべき資質・能力が判然としないため、ディプロマ・ポリシーの妥当性やディプロマ・ポリシーとの整合性を判断することができない。このため、(1)への対応を踏まえた上で、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) (1)及び(2)のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないため、示されたカリキュラム・ポリシーが、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として妥当なものであるかを判断することができない。このため、(1)及び(2)への対応を踏まえた上で、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

(1) 本学部の養成する人材像に求める知識・能力には、医療や介護に関する「技術」は含まれておりません。しかしながら、審査意見にあるように、「設置の趣旨等を記載した書類」において、医療や介護に関する「技術」を含めるとする記述が存在しました。このことについての経緯は、後述の【不適切な記載となった経緯】で説明させていただきますが、不適切な記述であり、下記の通

り修正します。なお、当該学部が掲げる養成する人材像、3つのポリシーにおいては、医療や介護に関する「技術」について記載しておりません。また、それらの整合性は申請書で示したとおりであり、修正はありません。

【不適切な記載となった経緯】

本学部の設置の目的、カリキュラムの検討過程において、医療や介護に関する「知識」に加え「技術」についても対応すべきであるという意見があり、「技術」に関する授業科目を4～5科目程度設置する方向で検討しました。しかしながら「技術」が必要な治療行為または施術行為は、医療従事者(医療に関する有資格者)のみが行えるものであることから、本学部では一般的、基礎的な医療に関する知識の獲得を目的とする事が適切であると考え、「技術」に関する授業科目の設置は断念しました。

- (2) 上記(1)で述べましたように、「設置の趣旨等を記載した書類」において、養成する人材が身に付けるべき資質・能力に関する不適切な記述を修正しました。これに関連した養成する人材像及びディプロマ・ポリシーに関する修正はありません。また、養成する人材像とディプロマ・ポリシーとの整合性は申請書で示したとおりです。
- (3) 上記(1)で述べましたように、「設置の趣旨等を記載した書類」において、養成する人材が身に付けるべき資質・能力に関する不適切な記述を修正しました。これに関連した養成する人材像及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに関する修正はありません。また、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性は申請書で示したとおりです。

(新旧対照)設置の趣旨を記載した書類(6 ページ)

新	旧
<p>(略)</p> <p>(6)医療分野の人材を育成してきた本学が観光人材を育成する背景(これからの観光専門職には医療や介護に関する知識が必要であること)</p> <p>(略)</p> <p>観光はこうしたニーズが相対的に高い分野と言える。観光において人々は非日常的な環境に身を置くわけであり、旅行中の怪我や病気、持病等への対応など医療に関するリスクは最大の心配事であると言っても過言ではなからう。観光関係者はそれらのリスクへの第一次的対応に関する知識が不可欠である。</p>	<p>(略)</p> <p>(6)医療分野の人材を育成してきた本学が観光人材を育成する背景(これからの観光専門職には医療や介護に関する知識が必要であること)</p> <p>(略)</p> <p>観光はこうしたニーズが相対的に高い分野と言える。観光において人々は非日常的な環境に身を置くわけであり、旅行中の怪我や病気、持病等への対応など医療に関するリスクは最大の心配事であると言っても過言ではなからう。観光関係者はそれらのリスクへの第一次的対応に関する知識技術が不可欠である。</p>

(是正事項)観光学部 観光学科

2. 設置の趣旨等を記載した書類(資料)の資料4「観光学部観光学科カリキュラムマップ」において、ディプロマ・ポリシー5「医療と介護に関する基本的知識」に対応すると示されている発展科目群の「ヘルスツーリズム領域」の授業科目は、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーを踏まえると主要な授業科目を含んでいるものと見受けられるが、本領域の授業科目は、「ヘルスツーリズム概論」を除き、兼任・兼担教員が担当することとなっている。また、基盤科目群と基幹科目群について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「④-1教育課程の編成・実施の方針」において「2年次を中心(一部1年次、3年時開講科目を含む)に、社会学の基礎概念を理解すると共に、観光学の共通基盤を体系的に身につけることを目的とした「基盤科目群」「基幹科目群」を配置している」と説明がされており、観光学に関する共通基盤を学ぶこれらの科目も主要な授業科目であると思われ。しかしながら、大部分の科目を兼任・兼担教員が担当することとなっていることから、令和4年改正前大学設置基準第10条に定める「教育上主要と認める授業科目については原則として専任の教授又は准教授に・・・担当させるものとする」規定を満たしているか疑義がある。このため、これらの授業科目について、教育課程における主要な授業科目に該当するものを、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーとの関連や整合性の説明を含めて明確にした上で、当該授業科目について教員配置の妥当性を説明するとともに、必要に応じて教員配置を改めること。

(対応)

1. ディプロマ・ポリシー5「医療と介護に関する基本的知識」に対応する発展科目群の「ヘルスツーリズム領域」を担当する教員は、審査意見に基づき専任教員1名(教授1名)体制であったものを、新たに専任教員1名(准教授1名)を専任教員候補者として増員し、専任教員2名体制とする。当該候補者が専任教員として認められた場合、本領域における教育上主要と認める授業科目については、専任教員が担当する体制となる。なお、本領域における他の授業科目については健康・医療に関する基本的な知識を学修するため、専任教員に加えて医療技術者養成の長い経験を有する本学保健医療学部の専任教員である兼担教員を配置する。
2. 基盤科目群と基幹科目群に配置する、観光学に関する共通基盤を学ぶ授業科目について、審査意見に基づき、新たに専任教員1名(准教授1名)を専任教員候補者として増員する。このことにより、基盤科目群と基幹科目群において本学が教育上主要と認める授業科目9科目のうち4科目を専任教員が担当する。残りの専任教員が担当しない教育上主要と認められる授業科目5科目については、下記の本学部の構想段階から関与した豊富な専門性を有する兼担教員及び兼任教員を配置し、専任教員が担当するのと同等の質を担保する。

(兼任・兼任教員が担当する教育上主要と認める授業科目)

授業科目の名称	授業担当教員	理由
---------	--------	----

観光学概論 観光社会学	(兼任) 戸崎 肇 講師	当該教員は、航空会社での勤務経験、大学教員歴、並びに国土交通省各種委員会委員を歴任による知見を基に、本学部の設置構想段階から教育課程の編成に携わっていただきました。学部開設後も本学部客員教授に就任予定であり、専任教員が担当すると同等の質を担保できるものと考えております。
社会学入門 社会調査法Ⅱ	(兼任) 菊池 勇哉 講師	当該教員は、本学保健医療学部における医療技術者養成において、「社会学」の視点から医療・福祉に関わる事象を見つめ、教育研究を行っており、また、本学部の教育課程の編成に設置構想の段階から携わっていただきました。当該教員が有する知見は本学部の学生の教育の質の向上が期待でき、専任の教員が担当すると同等に質が担保できるものと考えております。
公衆衛生学	(兼任) 岸野 万伸 講師	当該教員は、本学保健医療学部において、当該分野における医療技術者養成における教育研究に精通しているため、多岐にわたる知識と経験を有している。また、本学部の設置構想段階から教育課程の編成に携わっていただきました。本学部の学生の教育の質の向上が期待でき、専任の教員が担当すると同等に質が担保できるものと考えております。

3. 上記1, 2の対応により、本学部が設定する教育目的を達成するために必要な授業科目(教育上主要と認める授業科目)については、専門教育科目において17科目中12科目を専任教員が担当、基礎教育科目、卒業研究を含むすべての教育上主要と認める授業科目において31科目中25科目を専任教員が担当することになります。【別添資料1】「観光学部観光学科カリキュラムマップ」
4. 上記1, 2の対応により増員する専任教員が担当する授業科目を以下のとおり開設する。

授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業 形態	専任教員 の配置
		必修	選択		
基幹科目群					
ツーリズム論	2①	2		講義	准教授 1
観光メディア論	2・3②		2	講義	准教授 1
発展科目群ヘルスツーリズム領域					
ウェルネスツーリズム論	3③		2	講義	准教授 1

(是正事項)観光学部 観光学科

3. 専任教員のうち、所属する校地が宮古島キャンパスである教員が3名となっているが、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑤-2履修指導方法」において「キャンパス内に設置する学生寮にはほぼ全員が居住する(宮古島出身者は希望者のみ入居)という教育環境を活かし、宮古島キャンパスに配置する3名の専任教員が個々の学生に頻繁に接触し履修指導を徹底する」と説明されていることから、教員数に対し学生数が多く、専任教員による履修指導が適切に実施できるかについて疑義がある。このため、計画している教員配置で学生への適切な教育指導対応を行うことができることについて、履修指導のスケジュール、教員の研究活動の観点を踏まえつつ明確に説明するとともに、必要に応じて教員配置を適切に改めること。

(対応)

1. 審査意見に基づき、専任教員における学生への適切な教育指導対応が行えるよう、所属する校地が宮古島キャンパスである専任教員 3名(教授 1名、准教授 1名、講師 1名(教員資格審査保留))体制であったものを、新たに専任教員 1名(講師 1名)を専任教員候補者として増員する。
2. このことよって、宮古島キャンパスにおける専任教員一人当たりの収容定員に対する学生数(ST比)は 25.0 人となり、教員 1名が担任する学生数としては適切な数であると考えている。
3. 宮古島キャンパスに所属する専任教員の担当授業時間数は以下のとおりであり、すべての専任教員が週 5 日の勤務であり、担当する授業時間数は週当たり 1コマ～4コマ(1コマ=100分)の状況であることから、学生への教育指導、教員の研究活動の時間は十分に確保できると考えている。

職位	氏名	担当授業科目	開講 学期	週当たり 担当コマ時間数
教授	Caitlin Stronell	英語コミュニケーション 1	①	4コマ
		英語コミュニケーション 2	②	4コマ
		英語コミュニケーション 3	③	4コマ
		英語コミュニケーション 4	④	4コマ
准教授	上地 昭人	空手・古武道	①	1コマ
		空手・古武道	②	1コマ
		空手・古武道	③	1コマ
		空手・古武道	④	1コマ
講師	Douglas Middleton	英語コミュニケーション 1	①	4コマ
		英語コミュニケーション 2	②	4コマ
		英語コミュニケーション 3	③	4コマ
		英語コミュニケーション 4	④	4コマ
講師	宮本 陽子	英語コミュニケーション 1	①	4コマ
		英語コミュニケーション 2	②	4コマ
		英語コミュニケーション 3	③	4コマ
		英語コミュニケーション 4	④	4コマ

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(18 ページ)

新	旧
<p>⑤-2 履修指導方法 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1年次 キャンパス内に設置する学生寮にはほぼ全員が居住する(宮古島出身者は希望者のみ入居)という教育環境を活かし、宮古島キャンパスに配置する <u>4</u> 名の専任教員が個々の学生に頻繁に接触し履修指導を徹底する。 <u>4 名の専任教員は、宮古島キャンパスに週当たり平均 5 日勤務し、担当する授業時間以外の時間帯を学生への教育指導に充てることとする。</u> また、その内容を <u>4</u> 名の専任教員で共有するべく各クォーター終了時点で評価会議を行う。 <p>(略)</p>	<p>⑤-2 履修指導方法 (略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 1年次 キャンパス内に設置する学生寮にはほぼ全員が居住する(宮古島出身者は希望者のみ入居)という教育環境を活かし、宮古島キャンパスに配置する <u>3</u> 名の専任教員が個々の学生に頻繁に接触し履修指導を徹底する。 <p>また、その内容を <u>3</u> 名の専任教員で共有するべく各クォーター終了時点で評価会議を行う。</p> <p>(略)</p>

(是正事項)観光学部 観光学科

4. 専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

1. 教員資格審査において、書類不備による審査保留となっている専任教員 4 名(准教授 1 名、講師 3 名)について、必要書類を整備した上で再判定を申請いたします。
2. 加えて、審査意見2、及び3に基づき、新たに専任教員 2 名(准教授 1 名、講師 1 名)を増員します。
3. 上記1・2の教員が教員資格審査において申請どおりの結果となった場合、当該学部の専任教員数は 16 名となり、内 7 名がすでに教授として認められていることから、大学設置基準の規定を満たすこととなります。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(26 ページ)

新	旧
<p>⑨ 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>⑨-1 教員組織の編成の考え方</p> <p>本学部の教員組織は、専任教員を <u>16</u>名配置し、大学設置基準に定める専任教員基準人数(<u>14</u>名以上)を満たしている。このことによって、専任教員一人当りの収容定員に対する学生数(ST比)は、<u>25.0</u>名となる。</p> <p>職位の構成は、教授 <u>7</u>名、准教授 <u>5</u>名、講師 <u>4</u>名で、バランスの採れた配置であり、後継者育成の観点からも望ましい構成と考えている。また外国籍の教員が 2 人含まれている。</p> <p>この教員組織は、本学部の養成する人材像及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現するために必要な構成となっている。</p> <p>次に、「基礎教育科目」「専門教育科目」及び「卒業研究」を担当する教員組織(数)は以下のとおりである。なお、本学部では、教員配置に際して、教育上主要と認める授業科目には、専任教員</p>	<p>⑨ 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>⑨-1 教員組織の編成の考え方</p> <p>本学部の教員組織は、専任教員を <u>14</u>名配置し、大学設置基準に定める専任教員基準人数(<u>12</u>名以上)を満たしている。このことによって、専任教員一人当りの収容定員に対する学生数(ST比)は、<u>28.6</u>名となる。</p> <p>職位の構成は、教授 <u>10</u>名、准教授 <u>1</u>名、講師<u>3</u>名で、<u>教授職に重きを置きつつも</u>バランスの採れた配置であり、後継者育成の観点からも望ましい構成と考えている。また外国籍の教員が 2 人含まれている。</p> <p>この教員組織は、本学部の養成する人材像及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現するために必要な構成となっている。</p> <p>次に、「基礎教育科目」「専門教育科目」及び「卒業研究」を担当する教員組織(数)は以下のとおりである。なお、本学部では、教員配置に際して、教育上主要と認める授業科目には、専任教員</p>

<p>を充てる方針を採っており、この方針の下で科目担当者が配置されている。</p> <p>(1) 基礎教育科目</p> <p>開講科目数は <u>52</u> 科目で、専任教員 <u>14</u> 名に加え、兼任教員 <u>11</u> 名の合計 <u>25</u> 名で担当するが、そのうち <u>37</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>当該基礎教育科目に配置する必修科目 <u>17</u> 科目のうち、「情報リテラシー演習 I・II」を除く <u>15</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>(2) 専門教育科目</p> <p>開講科目数は <u>60</u> 科目で、専任教員 <u>9</u> 名に加え、兼担教員 <u>8</u> 名、兼任教員 <u>13</u> 名の合計 <u>30</u> 名で担当するが、そのうち <u>30</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>当該専門教育科目に配置する必修科目 <u>11</u> 科目のうち、<u>5</u> 科目を専任教員が担当するが、<u>7</u> 科目は兼担教員、兼任教員が担当する。これらの担当は、教員それぞれが有する専門性を最大限活かしたものである。特に本学既存学部が有する医療技術分野における経験を生かした観光専門職人材の育成には医療技術者養成の長い経験を有する兼担教員が担当することが教育効果を高めると考えている。</p> <p>(3) 卒業研究</p> <p>必修科目である「卒業研究」は、専任教員 <u>9</u> 名で担当する。</p> <p>以上、教育課程における授業科目担当教員人数は、専任教員 <u>16</u> 名、兼</p>	<p>を充てる方針を採っており、この方針の下で科目担当者が配置されている。</p> <p>(1) 基礎教育科目</p> <p>開講科目数は <u>52</u> 科目で、専任教員 <u>12</u> 名に加え、兼任教員 <u>10</u> 名の合計 <u>22</u> 名で担当するが、そのうち <u>38</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>当該基礎教育科目に配置する必修科目 <u>20</u> 科目のうち、「情報リテラシー演習 I・II」を除く <u>18</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>(2) 専門教育科目</p> <p>開講科目数は <u>57</u> 科目で、専任教員 <u>8</u> 名に加え、兼担教員 <u>8</u> 名、兼任教員 <u>12</u> 名の合計 <u>28</u> 名で担当するが、そのうち <u>27</u> 科目を専任教員が担当する。</p> <p>当該専門教育科目に配置する必修科目 <u>11</u> 科目のうち、「社会調査法 I」を除く <u>10</u> 科目を兼担教員、兼任教員が担当するが、これらの担当は、教員それぞれが有する専門性を最大限活かしたものである。特に本学既存学部が有する医療技術分野における経験を生かした観光専門職人材の育成には医療技術者養成の長い経験を有する兼担教員が担当する。</p> <p>(3) 卒業研究</p> <p>必修科目である「卒業研究」は、専任教員 <u>9</u> 名で担当する。</p> <p>以上、教育課程における授業科目担当教員人数は、専任教員 <u>14</u> 名、兼</p>
---	--

<p>担教員 <u>8</u> 名、兼任教員 <u>21</u> 名の合計 <u>46</u> 名の教員組織となっている。</p> <p>⑨-2 専任教員の年齢構成</p> <p>専任教員の就任時の年齢構成は、 40代 <u>4</u> 名、50代 <u>6</u> 名、60代 3 名、 70代 3 名である。</p> <p>(略)</p>	<p>担教員 8 名、兼任教員 <u>20</u> 名の合計 <u>42</u> 名の教員組織となっている。</p> <p>⑨-2 専任教員の年齢構成</p> <p>専任教員の就任時の年齢構成は、 40代 <u>3</u> 名、50代 <u>5</u> 名、60代 3 名、 70代 3 名である。</p> <p>(略)</p>
---	--

(是正事項)観光学部 観光学科

5. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

1. 教員資格審査において、「不可」となった授業科目のうち「比較文化論」について、当該授業科目は、「文化や立場を異にする様々な人々に対するコミュニケーション能力の獲得」を到達目標とするDP4に対応する科目として、本学部の教育課程において基礎教育科目教養科目群に位置付けられているが、当該授業科目は、文化や社会の比較研究に焦点を当てた学問分野であり、観光業界に直接的な関連性が低いことから、大学設置基準において、教育上主要と認める授業科目には該当しないと考えることから兼任教員をもって後任を補充する。

(新旧対照表)教育課程等の概要

新		旧	
授業科目名称	専任教員等の配置	授業科目名称	専任教員等の配置
比較文化論	兼 1	比較文化論	教授 1

2. 上記の 1 以外に教員資格審査において「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目については、補正申請において再判定、または新たに専任教員の判定を申請し対応する。

6. キャンパスの整備状況について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑪-2 校舎等施設の整備計画」において、宮古島キャンパスは旧城辺中学校校舎を改修し、尼崎キャンパスは旧若葉小学校校舎を改修し整備することが示されているが、これらの改修や整備が、本学部開設前までに完了するものであるのか、開設後も段階的に整備を行うものなのか判断としない。「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用 改正前基準)」のP119において、新たに大学等を設置する場合の校舎等の施設及び設備を段階的に整備する場合には年度ごとの整備計画の記載を求めていることから、本学科の開設後に校舎等の施設及び設備を段階的に整備する場合には、整備開始から完了までの工程表を示し、初年度から問題なく運営が可能であることについて具体的に説明すること。また、宮古島キャンパスの学生寮について、図面がなく、100人の学生が支障なく学生生活を送ることが可能であるか判断できないため、当該キャンパスの学生寮の図面を示しつつ、学生生活に支障がないことについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

(1)本学部で使用する宮古島キャンパス及び尼崎キャンパスは、学年進行に従って、段階的に整備する計画です。

審査意見を踏まえ、段階的整備の計画について、初年度から問題なく運営が可能であることについて具体的な説明を追加する。また、段階的整備の内容について明らかにするために、整備計画に係る工程表を資料として追加します。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(30 ページ)

新	旧
<p>本学部で使用する宮古島キャンパス及び尼崎キャンパスは、学年進行に従って、段階的に整備する。</p> <p>整備計画として、1年次生が使用する宮古島キャンパスについては、開設前年度(令和5年度)中に校舎の改修及び什器備品の整備を行い、1年次生が入学した際には、宮古島キャンパスで開講予定の全ての授業等が実施できるよう、整備する。2年次から4年次生が使用する尼崎キャンパスについては、開設年度(令和6年度)中に校舎の改修及び什器備品の整備を行い、2年次以降の教育の実施に対応する。整備に係る工程は、【資料17:宝塚医療大学 観光学部(仮称)設置に係る マスタースケジュール(案)】のとおりである。</p>	<p>追加</p>

<p>これにより、実際の学生の使用を見越して計画的な整備を行うことで、初年度から問題なく運営が可能であると考ええる。</p> <p>【中略】</p> <p>具体的な各キャンパスの整備の内容は以下のとおりである。</p>	
---	--

(2)宮古島キャンパスの学生寮について、新たに図面を資料として追加すると共に、学生寮の整備計画についての説明を追加します。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(32 ページ)

新	旧
<p>また、学生寮に関しては、令和4年10月から着工し、令和6年2月中に竣工の計画である。学生寮は、RC造3階建て、延べ床面積2,081.798㎡である。</p> <p>学生寮の学生用居室は127室を整備する。本学部の入学定員が100名であることから、十分に余裕を持った居室数であると考ええる。各居室には、トイレ、シャワールーム及び流しを整備すると共に、ベッド、デスク、チェア、冷蔵庫、デスクライト及びカーテンを予め設置し、学生の入寮時の負担を軽減するよう配慮する。また、学生寮にはLAN設備を整備し、学生が自由にインターネットを使用できる環境を整備する。これにより学生の自学自習やメディア教育に対応する。</p> <p>学生寮には居室の他、共用のランドリースペースを2カ所設けるほか、各階にコモンスペースを設ける。コモンスペースは、学生の交流の場であり、キッチンスペースを備え、学生が簡易な調理を行ったり、交流を持ったりする場として活用する。</p> <p>これらの他、管理人室、管理人住居を整備する。</p> <p>学生寮の管理運営に関しては、管理会社と契約し管理人を配置する事で、24時間体制</p>	<p>追加</p>

<p>で学生対応ができるよう整備する。</p> <p>学生寮の各室の配置等については、【資料19:学生寮意匠図】のとおりである。</p>	
--	--

7. 改正前の大学設置基準第 36 条第1項に定める、専用の設備を備えた校舎を有するものとされる「学長室」について、校舎図面では備え付けられていることが確認できないことから、「学長室」が本学に備えられていることについて明確に説明するとともに、適切に改めること。ただし、特別の事情があり、かつ教育研究に支障がないと判断する場合には、当該事情や判断理由について説明すること。

(対応)

学長は、既存学部が設置されている宝塚キャンパスにある学長室において通常は執務を行います。

宮古島キャンパスには、「学部長室 応接室」を整備し、出張等で宮古島キャンパスに学長が訪問した際には、当室を使用することで対応する事を計画しています。審査意見を受け、宝塚キャンパスにおける学長室の整備状況がわかる図面を添付します。

尼崎キャンパスは、宝塚キャンパスと近く相互の往来が容易であることから、学長室の整備は要さないと考えます。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(30 ページ)

新	旧
<p>学長室については、既存の宝塚キャンパスに【資料 18:宝塚キャンパス 1 階平面図】のとおりに整備している事から、新たに宮古島キャンパス及び尼崎キャンパスに学長室は整備しない事としている。宮古島キャンパスでは、学長が訪問時に執務ができるよう、「学部長室 応接室」を整備する。</p>	<p>追加</p>

8. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第9号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、本学学則に寄宿舎に関する事項の記載を追加します。また、学則の新旧対照表についても適切に修正します。

(改善事項)観光学部 観光学科

9. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の①-3(2)「養成する人材像」において「国や地域、文化等、あらゆる背景を持った多様な人々に対する高いコミュニケーション能力」や「観光分野でこれから益々重要となる医療及び介護に関する知識」を掲げていることを踏まえれば、外国人観光客に観光中の健康リスクが生じた場合に、医療機関と外国人観光客をつなぐことができる程度の医療に関する英語力や基礎的な医療英語が求められることも想定される。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「④-1 教育課程の編成・実施の方針」の「CP3 実践的で高い英語力の育成」において、関連科目として示されている英語に関する授業科目には、医療機関と外国人観光客をつなぐことができる程度の医療に関する英語力や基礎的な医療英語に関係する授業内容が見受けられないことから、本学に観光人材を養成する学部を設置する背景や目的を踏まえ、養成する人材像に必要と考えられる医療に関する英語力や医療英語を学ぶ授業内容を設けることが望ましい。

(対応)

審査意見でご指摘をいただきました「医療機関と外国人観光客をつなぐことができる程度の医療に関する英語力や基礎的な医療英語に関係する授業内容」につきまして、必修科目である「英語コミュニケーション 1・2・3・4」「English for Tourism 1・2」の授業で取扱うテーマにおいて対応することとしております。各授業科目で設定する到達目標レベルに沿った内容とし、観光専門人材として現場で活用できる実践的で高い英語力を育成いたします。

(改善事項)観光学部 観光学科

10. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

本学の定年は満 65 歳です。ただし「宝塚医療大学教員の定年の特例に関する申合せ」に基づき、新たに学部、学科を設置する場合は定年年齢を 75 歳までの任意の年齢とすることができることとしています。また、75 歳を超えて本学に貢献できると学長が判断し、理事長が特に必要と認めた場合、同者の定年年齢については、理事会の議を経て理事長が別に定める事ができる事としております

就任時に 65 歳を超えている教員 5 名、完成年度までに 65 歳を超える教員 1 名を合わせて 6 名が当該申し合わせの対象となり、個別に雇用契約を締結します。

完成年度である令和 9 年度開始時点で当該申し合わせによる定年年齢である 75 歳以上となる教員が 1 名いるが、本学規程により少なくとも完成年度が終了するまでの間については、教員組織を担保できると考えています。

一方で、教員の定年に伴い、学内昇任及び公募等による新規採用については、教員と連携して教育研究ができるよう、開設後から専門領域の職位及び年齢構成の適正化、教育研究の継続性の維持を図ります。

本学部の完成年度以降、計画的に定年により退職する教員の後任者の採用を行い、教育研究活動に支障を来さないよう対応すると共に、積極的に若手教員の採用を行います。

なお、教員の選考及び昇任に当たっては、宝塚医療大学教員選考規程に基づき教員選考委員会を設置し、当該委員会において協議し、学長に報告します。選考委員会は、学科長の推薦のもとに学長が指名する 3 名以上の教授をもって構成し、学長が指名する副学長がその委員長となることとしていることから観光学部の教授を中心に委員会を設置する計画です。

11. 事務組織について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「⑬-4事務組織体制や学生の厚生補導を行うための組織」において「大学各キャンパスの統括は宝塚市にある既存の事務局が行う事とするが、遠方である宮古島キャンパスでは事務対応の即応性を担保するため、事務長を配置し、責任体制を明確にすると共に、業務分掌規程に基づく適切な業務分担を行う」と説明されているが、宮古島キャンパス専任の事務職員数、業務内容が明らかでなく、事務体制に支障がないかを判断することができないことから、宮古島キャンパスの事務組織について明確にした上で、適切な事務体制が確保されていることを説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

宮古島キャンパスの事務室には、業務の責任者としての事務長のほか、専任職員 3 名、兼務職員1名を配置する計画です。

大学各キャンパスの統括は宝塚市にある既存の事務局が行うが、宮古島事務室で対応する業務は具体的には次のとおり想定しています。

- (1) 諸行事に関すること。
- (2) 現金、切手等の管理に関すること。
- (3) 履修指導、出席・成績管理に関すること。
- (4) 各種奨学金に関すること。
- (5) 学生の福利厚生、課外活動等に関すること。
- (6) 各種証明書及び学生旅客運賃割引証の発行に関すること。
- (7) 学生募集に関すること。
- (8) 学生のアルバイトに関すること。
- (9) 教職員の兼職、懲戒、労働時間、休暇等人事管理に関すること。
- (10) 物品の調達等に関すること。
- (11) 旅費及び謝金に関すること。
- (12) 施設等の維持及び保全に関すること。
- (13) 所掌事務の調査、統計及び報告並びに情報の管理に関すること。
- (14) その他宮古島キャンパスの事務に関すること。

審査意見を踏まえ、設置の趣旨を記載した書類について、次のとおり改めます。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(37 ページ)

新	旧
<p>宮古島キャンパスの事務室においては、事務長のほか、専任職員 3 名、兼任職員 1 名を配置する計画である。</p> <p>本学における学籍管理は、教務システムを</p>	追加

<p>使用し、宝塚キャンパスで一括して行っている。宮古島キャンパスの事務室では、履修指導、成績管理などを担当する教務事務、学生の奨学金に関する事項、キャリア教育・相談や課外活動などを担当する学生窓口事務が中心となると考えている。このほか、教職員の勤怠及び給与の支払い、授業料等の納入管理、各種支払などの総務事務については、宝塚キャンパスが一括して中心的な業務を行い、宮古島キャンパスでは補助的な役割を担い、小口現金の取扱い等の現地での対応が必要な業務を中心に対応する。入試広報に関する事務は宝塚キャンパスが統括して、入学試験委員会及び広報委員会と協働して全体の計画の策定、実施を行うが、一部沖縄地区の広報活動については、宮古島キャンパスの職員が分担して対応する計画である。</p>	
--	--

12. 本学部のカリキュラムが学士(観光学)を与えるに相応しい体系性を有していること、また、本学部において、観光専門職として必要な医療及び ICT・AI の基礎的知識をどの程度を求めているのかに関する説明の追記。

(対応)

1. 本学部のカリキュラムが学士(観光学)を与えるに相応しい体系性を有していることに関する説明

本学部のカリキュラムは、「設置の趣旨等を記載した書類」の①-3「どのような人材を養成するのか(養成する人材像)」において記載した以下の認識に立っています。

観光は、我が国の基幹産業への発展が期待されているが、その実現のためには拡大が予想されるインバウンド需要や高サービス化に対応できる付加価値の高い人材の育成が必要です。

また、観光の事業環境は社会の変化に影響され大きく変動します。それ故、求められる人材には、時代の趨勢を踏まえた観光専門職として必要な知識・能力に加え、変化する状況に対応できる実践的能力が不可欠です。

本学部は、本学の医療技術分野における経験も活かし、このような観光専門職人材を育成することで観光産業及び地域に貢献することを目的とします。

この認識に基づき、学生に豊富な知識とスキルを提供し、卒業後の観光業界での成功に向けた基礎を築くためにカリキュラムは設計されています。このカリキュラムにおいては、以下の四つの視点を重視しています。

- (1) 幅広い学問分野の統合: 本学の観光学部のカリキュラムは、多くの異なる学問分野を横断的に学修し知識を統合しています。社会学、経済学、地理学、文化人類学、情報科学など、観光に関連するさまざまな分野の理論を包括的に学びます。これにより、学生は観光の多面的な側面を理解し、総合的な視野を持つことができます。
- (2) 実践的な学修機会: 本学部のカリキュラムは、実践的な学修機会を提供します。インターンシップ、フィールドワークなどを通じて、学生は実際の観光環境での経験を積むことができます。実地での学修は、理論を現実社会に適用する能力を養い、実務に即したスキルを身につけるのに役立ちます。
- (3) 問題解決能力の開発: 本学部のカリキュラムは、学生の問題解決能力を重視しています。現代の観光業界はさまざまな課題に直面しており、地域開発、環境保護、持続可能性、などの問題を解決する能力が求められています。本学部では、学生が複雑な問題を分析し、継続的な改善策を提案するためのスキルを養います。
- (4) 国際的な視点: 近年のインバウンド需要の増大で見えるように観光は国際的な産業であり、異文化間の相互作用が重要となります。本学部のカリキュラムでは、英語教育を重視すると共に異文化理解や国際観光の特徴について学ぶ機会を提供します。留

学プログラムなどを通じて、学生は異なる文化や観光市場の違いを理解し、グローバルな視点を持つことができます。

本学部のカリキュラムは、上記の要素を意識したうえで、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づき科目区分・科目群により体系化されており、学生は以下に示す卒業要件に基づき単位を修得することにより学士(観光学)を取得することができます。

下表に示されているように、学生は専門教育科目を、必修 20 単位+選択必修 40 単位の合計60単位に加え卒業研究4単位を最低限学ぶこととなり、学士(観光学)に相応しい体系性を備えていると考えます。

区分	科目群	開講単位数	必修	選択必修	選択
基礎教育科目	導入教育科目群	4 単位	4 単位	-	20 単位
	外国語教育科目群	29 単位	16 単位	-	
	キャリア教育科目群	10 単位	6 単位	-	
	教養教育科目群	44 単位	-	14 単位	
専門教育科目	基盤科目群	15 単位	11 単位	40 単位	
	基幹科目群	47 単位	9 単位		
	発展科目群	54 単位	-		
卒業研究		4 単位	4 単位	-	-
小計		207 単位	50 単位	54 単位	20 単位
卒業に必要な単位数			124 単位		

2. 本学部において、観光専門職として必要な医療及び ICT・AI の基礎的知識をどの程度を求めているのか

観光において人々は非日常的な環境に身を置くわけであり、旅行中の怪我や病気、持病等への対応など医療に関するリスクは観光客にとって大きな心配事であると本学部は基本的に考えています。加えて、日本の高齢化や近年の感染症の度重なる世界的流行を考えると、観光関連従事者が医療や介護に関する基本的な知識を持ち、リスクへの第一次的対応が出来ることは極めて重要であると考えています。

こうした背景を踏まえ、本学は、これまで取り組んできた医療技術者育成のノウハウを活かし、観光学部の基幹科目として、以下の医療・介護に関する科目を配置しています。

公衆衛生学	必須・2 単位
人体の構造と機能	選択・2 単位
東洋医学入門	選択・2 単位
介護の基本	選択・2 単位
観光医療 I	選択・2 単位
観光医療 II	選択・2 単位

これらの科目の内容は、リスクへの第一次的対応を可能とすることを想定しており、医療・介

護に関する基本的な知識を養成することを目的としています。

なお、発展科目群において「ヘルスツーリズム領域」を選択する学生については、ヘルスツーリズム及びウェルネスツーリズムに関連した医療・健康・食に関する10科目を配置し選択受講させます。

ICT・AIの基礎的知識に関しては、社会の急速な高度情報化が観光関連業界においては特に顕著であるという認識のもと、就職後においてデータ分析による業務改善、企画や業務方針の立案等を可能とするための基礎的能力の獲得を目指し、基盤科目群に以下の科目を配置しています。

データサイエンスⅠ	必須・1単位
データサイエンスⅡ	選択・1単位
データサイエンスⅢ	選択・1単位
AI基礎	選択・2単位

内容的には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム(リテラシーレベル)」に認定されることを目指しており、その制度の目標として記載されている「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成する」の実現を目指しています。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(11ページ)

新	旧
④ 教育課程の編成の考え方及び特色 ④-1 教育課程の編成・実施の方針 <u>本学部のカリキュラムは、上記①-3に示した養成する人材像の認識に基づき、学生に豊富な知識とスキルを提供し、卒業後の観光業界での成功に向けた基礎を築くためにカリキュラムが設計されている。このカリキュラムにおいては、以下の四つの視点を重視している。</u> (1) <u>幅広い学問分野の統合: 本学部の観光学のカリキュラムは、多くの異なる学問分野を横断的に学修し知識を統合している。社会学、経済学、地理学、文化人類学、情報科学など、観光に関連するさまざまな分野の理論を包括的に学ぶ。これにより、学生は観光の多面的な側面を理解し、総合的な視野を持つことができる。</u>	④ 教育課程の編成の考え方及び特色 ④-1 教育課程の編成・実施の方針

<p>(2) <u>実践的な学修機会</u>: 本学部のカリキュラムは、<u>実践的な学修機会を提供する。インターンシップ、フィールドワークなどを通じて、学生は実際の観光環境での経験を積むことができ、実地での学修は、理論を現実社会に適用する能力を養い、実務に即したスキルを身につけるのに役立つ。</u></p> <p>(3) <u>問題解決能力の開発</u>: 本学部のカリキュラムは、<u>学生の問題解決能力を重視する。現代の観光業界はさまざまな課題に直面しており、地域開発、環境保護、持続可能性、などの問題を解決する能力が求められている。本学部では、学生が複雑な問題を分析し、継続的な改善策を提案するためのスキルを養う。</u></p> <p>(4) <u>国際的な視点</u>: <u>近年のインバウンド需要の増大で見えるように観光は国際的な産業であり、異文化間の相互作用が重要となる。本学部のカリキュラムでは、英語教育を重視すると共に異文化理解や国際観光の特徴について学ぶ機会を提供する。留学プログラムなどを通じて、学生は異なる文化や観光市場の違いを理解し、グローバルな視点を持つことができる。</u></p> <p><u>上記の要素を意識したうえで、本学部では上記①-4(1)に示したディプロマ・ポリシーを達成するために、上記①-4(2)に示したカリキュラム・ポリシーを設定した。</u></p> <p>(略)</p> <p>CP4 ICT 能力や数理データサイエンス・AIに関する知識・技術の修得 社会の急速な高度情報化が観光関</p>	<p>本学部では上記①-4(1)に示したディプロマ・ポリシーを達成するために、上記①-4(2)に示したカリキュラム・ポリシーを設定した。</p> <p>(略)</p> <p>CP4 ICT 能力や数理データサイエンス・AIに関する知識・技術の修得</p>
---	--

連業界においては特に顕著であるとい
う認識のもと、就職後においてデータ分
析により業務改善、企画や業務方針の
立案等を可能にするための基礎的能
力の獲得を目指す。

1年次に ICT に関する基礎的知識・
技術を網羅的に修得するために、必修
科目「情報リテラシー演習 I・II」を配
置する。2年次に ICT 能力を基礎とす
る実践的なデータ分析力を修得するた
めに、必修科目「データサイエンス
I」、選択科目「データサイエンス II・
III」を配置、さらに AI の基礎的な知識
技術を修得するために、選択科目「AI
基礎」を配置する。

以上の科目配置により、文部科学省
の「数理・データサイエンス・AI 教育プ
ログラム認定制度」が目標としている
「数理・データサイエンス・AI への関心
を高め、かつ、数理・データサイエンス・
AI を適切に理解し、それを活用する基
礎的な能力」を育成する。

また、上記の科目により近年の情報
通信技術の急速な発展を背景として観
光業界で対応し始めているオンライン・
ツーリズムやオンライン・トラベル・エー
ジェント(OTA)等の新しい事業形態に
対応できる基礎知識を修得する。

(略)

CP7 医療と介護に関する基本的知識 の修得

観光において人々は非日常的な環
境に身を置くことによる、旅行中の怪我
や病気、持病等への対応など医療に関
するリスクは観光客にとって大きな心配
事である。加えて、日本の高齢化や近
年の感染症の度重なる世界的流行を

1年次に ICT に関する基礎的知識・
技術を網羅的に修得するために、必修
科目「情報リテラシー演習 I・II」を配
置する。2年次に ICT 能力を基礎とす
る実践的なデータ分析力を修得するた
めに、必修科目「データサイエンス
I」、選択科目「データサイエンス II・
III」を配置、さらに AI の基礎的な知識
技術を修得するために、選択科目「AI
基礎」を配置する。

以上の科目配置により、文部科学省
の「数理・データサイエンス・AI 教育プ
ログラム認定制度」で求められている内
容を網羅する。

また、上記の科目により近年の情報
通信技術の急速な発展を背景として観
光業界で対応し始めているオンライン・
ツーリズムやオンライン・トラベル・エー
ジェント(OTA)等の新しい事業形態に
対応できる基礎知識を修得する。

(略)

CP7 医療と介護に関する基本的知識 の修得

<p><u>考えると、観光関連従事者が医療や介護に関する基本的な知識を持ち、リスクへの第一次的対応が出来ることは極めて重要である</u>と考える。</p> <p><u>こうした背景を踏まえ、</u>本学の医療技術教育分野における経験を活かし、専門教育科目基幹科目群に医療及び介護に関する 7 科目(うち、必修1科目 2単位)を配置する。<u>これらの科目の内容は、リスクへの第一次的対応を可能とすることを想定しており、医療・介護に関する基本的な知識を養成することを目的とする。</u></p> <p>また、専門教育科目発展科目群の一つの領域として「ヘルスツーリズム領域」を設置し、健康の維持増進、東洋医学に基づく免疫力の強化等を目的とするヘルスツーリズム、<u>ウェルネス</u>ツーリズムのプログラム開発、運営の専門人材を育成する。</p> <p>(略)</p>	<p>本学の医療技術教育分野における経験を活かし、専門教育科目基幹科目群に医療及び介護に関する 7 科目(うち、必修 3科目 6単位)を配置する。</p> <p>また、専門教育科目発展科目群の一つの領域として「ヘルスツーリズム領域」を設置し、健康の維持増進、東洋医学に基づく免疫力の強化等を目的とするヘルスツーリズム、<u>メディカル</u>ツーリズムのプログラム開発、運営の専門人材を育成する。</p> <p>(略)</p>
--	---

(審査意見以外による補正事項)観光学部 観光学科

13. 「中期インターンシップ」はディプロマ・ポリシー6「観光専門職としての実践的能力(状況への対応力を兼ね備える)」を修得するのに重要な授業科目として位置づける。

(対応)

1. 本学部の養成する人材像やディプロマ・ポリシーにおける「インターンシップ」の重要性に鑑み、「中期インターンシップ」(2・3年・4単位)を主要な授業科目に位置付け、必修科目に変更する。
2. このことに伴い、養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとの整合性を鑑み、基礎教育科目における必修・選択科目について、以下のとおり変更する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由
導入教育科目群	(略)				
	小計(4科目)	—	0	0	0
基礎教育科目群	英語総合1	1①	2		
	英語総合2	1②	2		
	英語総合3	1③	2		
	英語総合4	1④	2		
	英語コミュニケーション1	1①	1		
	英語コミュニケーション2	1②	1		
	英語コミュニケーション3	1③	1		
	英語コミュニケーション4	1④	1		
	English for Tourism 1	2①	2		
	English for Tourism 2	2②	2		
	英語演習1	2①	+	1	
	英語演習2	2②	+	1	
	英語演習3	2③	+	1	
	英語演習4	2④	+	1	
	英語演習5	3①		1	
	英語演習6	3①		1	
	中国語1	2③		1	
	中国語2	2④		1	
	語学短期留学	1休		1	
	中期留学	2・3休		4	
小計(20科目)	—		16	13	0
キャリア教育科目群	基礎インターンシップ I	1通	1		
	基礎インターンシップ II	1通	1		
	中期インターンシップ	2・3休	4	4	
	観光におけるキャリア	2①		2	
	観光分野での起業	2④		2	
小計(5科目)	—		6	4	0
教養教育科目群	(略)				
	小計(23科目)	—	0	44	0

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(14 ページ)

新	旧
<p>(1) 基礎教育科目</p> <p>基礎教育科目では、学問形成に不可欠な基礎的・導入的な知識および能力などを修得し、専門分野の学修に備える。また、観光以外の分野についての知識やものの考え方を学ぶことで、多角的な視野をもつことも目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「導入教育科目群」 (略) ◆「外国語科目群」 観光専門職にとって必要不可欠である実践的な英語活用能力を身につける。 1 年次から 3 年次において 16 科目を配置する(必修 10 科目 16 単位)。学年ごとの具体的な科目配置は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次は、Reading と Writing を中心とする「英語総合 1～4」と「英語総合」で取扱うテーマと連動させた Speaking と Listening を中心とする「英語コミュニケーション 1～4」を必修科目として配置し、英語力の基礎を固める。 ・ 2 年次は、1 年次の学修を前提とした総合的な演習を内容とする「英語演習 1～4」を<u>選択科目として配置し</u>、English for Specific Purpose (特定の分野の為の英語)に基づくカリキュラムを構築して観光分野で必要な実践的英語力に焦点を置く「English for Tourism1・2」を必修科目として配置し、より高度で応用的な英語力を修得する。 ・ 3 年次は、TOEIC 試験を意識した 	<p>(1) 基礎教育科目</p> <p>基礎教育科目では、学問形成に不可欠な基礎的・導入的な知識および能力などを修得し、専門分野の学修に備える。また、観光以外の分野についての知識やものの考え方を学ぶことで、多角的な視野をもつことも目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「導入教育科目群」 (略) ◆「外国語科目群」 観光専門職にとって必要不可欠である実践的な英語活用能力を身につける。 1 年次から 3 年次において 16 科目を配置する(必修 14 科目 20 単位)。学年ごとの具体的な科目配置は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次は、Reading と Writing を中心とする「英語総合 1～4」と「英語総合」で取扱うテーマと連動させた Speaking と Listening を中心とする「英語コミュニケーション 1～4」を必修科目として配置し、英語力の基礎を固める。 ・ 2 年次は、1 年次の学修を前提とした総合的な演習を内容とする「英語演習 1～4」と English for Specific Purpose (特定の分野の為の英語)に基づくカリキュラムを構築して観光分野で必要な実践的英語力に焦点を置く「English for Tourism1・2」を必修科目として配置し、より高度で応用的な英語力を修得する。 ・ 3 年次は、TOEIC 試験を意識した

<p>より高度で実践的な内容の「英語演習 5・6」を選択科目として配置する。 (略)</p> <p>◆「キャリア教育科目群」</p> <p>学生の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を身につける。</p> <p>専門職として自立するためには、先ず、自らの将来設計を構想し自己実現を目指すことが必要である。その支援として1・2年次を中心に「キャリア教育科目群」5科目(必修3科目6単位)を配置する。</p> <p>キャリア教育は特に1年次が重要であるとの認識と1年次が観光産業の集積地である宮古島をキャンパスで学修することから、必修科目「基礎インターンシップ I・II」を通じて学生は観光産業の実態に触れると共に接客技術の基礎を修得する。</p> <p>1年次での成果を踏まえ、2年次においてはより実践的な内容である、選択科目「観光におけるキャリア」「観光分野での起業」を配置する。</p> <p>また、必修科目「中期インターンシップ」では、原則4週間にわたる観光関連企業におけるインターンシップを行い、現場で必要な実務能力や組織内での業務連携などについて理解する。</p>	<p>より高度で実践的な内容の「英語演習 5・6」を選択科目として配置する。 (略)</p> <p>◆「キャリア教育科目群」</p> <p>学生の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を身につける。</p> <p>専門職として自立するためには、先ず、自らの将来設計を構想し自己実現を目指すことが必要である。その支援として1・2年次を中心に「キャリア教育科目群」5科目(必修2科目2単位)を配置する。</p> <p>キャリア教育は特に1年次が重要であるとの認識と1年次が観光産業の集積地である宮古島をキャンパスで学修することから、必修科目「基礎インターンシップ I・II」を通じて学生は観光産業の実態に触れると共に接客技術の基礎を修得する。</p> <p>1年次での成果を踏まえ、2年次においてはより実践的な内容である、選択科目「観光におけるキャリア」「観光分野での起業」を配置する。</p> <p>また、「中期インターンシップ」では、原則4週間にわたる観光関連企業におけるインターンシップを行い、現場で必要な実務能力や組織内での業務連携などについて理解する。</p>
---	---

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(19ページ)

新	旧
<p>⑤-3 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせ、4年間以上在学し、以下の条件によって合計124単位以上の単位を修得することと設定している。</p> <p>(1) 基礎教育科目40単位以上(必修科</p>	<p>⑤-3 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせ、4年間以上在学し、以下の条件によって合計124単位以上の単位を修得することと設定している。</p> <p>(1) 基礎教育科目40単位以上(必修科</p>

<p>目 26 単位、<u>選択必修科目</u> 14 単位以上)</p> <p>(2) 専門教育科目 60 単位以上(必修科目 20 単位以上、<u>選択必修科目</u> 40 単位以上)</p> <p>(3) 上記 2 科目区分の中から自由に選択する単位 20 単位以上</p> <p>(4) 卒業研究 4 単位(必修科目 4 単位)</p> <p>表 1 卒業に必要な単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>科目群</th> <th>開講単位数</th> <th>必修</th> <th>選択必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎教育科目</td> <td>導入教育科目群</td> <td>4単位</td> <td>4単位</td> <td>-</td> <td rowspan="4">20単位</td> </tr> <tr> <td>外国語教育科目群</td> <td>29単位</td> <td><u>16</u>単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>キャリア教育科目群</td> <td>10単位</td> <td><u>6</u>単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>教養教育科目群</td> <td>44単位</td> <td>-</td> <td>14単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">専門教育科目</td> <td>基盤科目群</td> <td>15単位</td> <td>11単位</td> <td rowspan="3">40単位</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>基幹科目群</td> <td><u>47</u>単位</td> <td>9単位</td> </tr> <tr> <td>発展科目群</td> <td><u>54</u>単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">卒業研究</td> <td>4単位</td> <td>4単位</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">小計</td> <td><u>207</u>単位</td> <td>50単位</td> <td>54単位</td> <td>20単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2">卒業に必要な単位数</td> <td colspan="4">124単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	科目群	開講単位数	必修	選択必修	選択	基礎教育科目	導入教育科目群	4単位	4単位	-	20単位	外国語教育科目群	29単位	<u>16</u> 単位	-	キャリア教育科目群	10単位	<u>6</u> 単位	-	教養教育科目群	44単位	-	14単位	専門教育科目	基盤科目群	15単位	11単位	40単位		基幹科目群	<u>47</u> 単位	9単位	発展科目群	<u>54</u> 単位	-	卒業研究		4単位	4単位	-	-	小計		<u>207</u> 単位	50単位	54単位	20単位	卒業に必要な単位数		124単位				<p>目 26 単位、<u>選択科目</u> 14 単位以上)</p> <p>(2) 専門教育科目 60 単位以上(必修科目 20 単位以上、<u>選択科目</u> 40 単位以上)</p> <p>(3) 上記 2 科目区分の中から自由に選択する単位 20 単位以上</p> <p>(4) 卒業研究 4 単位(必修科目 4 単位)</p> <p>表 1 卒業に必要な単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>科目群</th> <th>開講単位数</th> <th>必修</th> <th>選択必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎教育科目</td> <td>導入教育科目群</td> <td>4単位</td> <td>4単位</td> <td>-</td> <td rowspan="4">20単位</td> </tr> <tr> <td>外国語教育科目群</td> <td>29単位</td> <td><u>20</u>単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>キャリア教育科目群</td> <td>10単位</td> <td><u>2</u>単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>教養教育科目群</td> <td>44単位</td> <td>-</td> <td>14単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">専門教育科目</td> <td>基盤科目群</td> <td>15単位</td> <td>11単位</td> <td rowspan="3">40単位</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>基幹科目群</td> <td>43単位</td> <td>9単位</td> </tr> <tr> <td>発展科目群</td> <td>52単位</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">卒業研究</td> <td>4単位</td> <td>4単位</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">小計</td> <td>201単位</td> <td>50単位</td> <td>54単位</td> <td>20単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2">卒業に必要な単位数</td> <td colspan="4">124単位</td> </tr> </tbody> </table>	区分	科目群	開講単位数	必修	選択必修	選択	基礎教育科目	導入教育科目群	4単位	4単位	-	20単位	外国語教育科目群	29単位	<u>20</u> 単位	-	キャリア教育科目群	10単位	<u>2</u> 単位	-	教養教育科目群	44単位	-	14単位	専門教育科目	基盤科目群	15単位	11単位	40単位		基幹科目群	43単位	9単位	発展科目群	52単位	-	卒業研究		4単位	4単位	-	-	小計		201単位	50単位	54単位	20単位	卒業に必要な単位数		124単位			
区分	科目群	開講単位数	必修	選択必修	選択																																																																																																								
基礎教育科目	導入教育科目群	4単位	4単位	-	20単位																																																																																																								
	外国語教育科目群	29単位	<u>16</u> 単位	-																																																																																																									
	キャリア教育科目群	10単位	<u>6</u> 単位	-																																																																																																									
	教養教育科目群	44単位	-	14単位																																																																																																									
専門教育科目	基盤科目群	15単位	11単位	40単位																																																																																																									
	基幹科目群	<u>47</u> 単位	9単位																																																																																																										
	発展科目群	<u>54</u> 単位	-																																																																																																										
卒業研究		4単位	4単位	-	-																																																																																																								
小計		<u>207</u> 単位	50単位	54単位	20単位																																																																																																								
卒業に必要な単位数		124単位																																																																																																											
区分	科目群	開講単位数	必修	選択必修	選択																																																																																																								
基礎教育科目	導入教育科目群	4単位	4単位	-	20単位																																																																																																								
	外国語教育科目群	29単位	<u>20</u> 単位	-																																																																																																									
	キャリア教育科目群	10単位	<u>2</u> 単位	-																																																																																																									
	教養教育科目群	44単位	-	14単位																																																																																																									
専門教育科目	基盤科目群	15単位	11単位	40単位																																																																																																									
	基幹科目群	43単位	9単位																																																																																																										
	発展科目群	52単位	-																																																																																																										
卒業研究		4単位	4単位	-	-																																																																																																								
小計		201単位	50単位	54単位	20単位																																																																																																								
卒業に必要な単位数		124単位																																																																																																											

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(23 ページ)

新	旧
<p>⑦ 企業実習(インターンシップを含む)や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>⑦-1 企業実習(インターンシップ)</p> <p>本学部で実施する企業実習(インターンシップ)は、1 年次「基礎インターンシップ I・II」(必修科目)と 2、3 年次「中期インターンシップ」(<u>必修科目</u>)の 3 科目を配置している。</p> <p>(略)</p>	<p>⑦ 企業実習(インターンシップを含む)や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>⑦-1 企業実習(インターンシップ)</p> <p>本学部で実施する企業実習(インターンシップ)は、1 年次「基礎インターンシップ I・II」(必修科目)と 2、3 年次「中期インターンシップ」(<u>選択科目</u>)の 3 科目を配置している。</p> <p>(略)</p>

(審査意見以外による補正事項)観光学部 観光学科

14. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)「④-2 教育課程の編成の体系性」の「(1)基礎教育科目」において、ディプロマ・ポリシー4「人々が織りなす現実の社会について幅広い知識の獲得と理解」に対応するカリキュラムである「教養教育科目群」について、「社会を構成する諸領域の中でも「観光」と密接な関係にある「文化・表象・宗教」「地域社会」「グローバリゼーションとエスニステイ」分野を中心に、1～2年次に23科目44単位を配置する。幅広い教養を身につけるといふ観点から必修科目は設定せず、すべて選択科目とする。」と説明されているが、当該領域における履修要件の説明が不十分であったことから説明を追記する。

(対応)

本学部の卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせ設定されており、設置の趣旨等を記載した書類 20 ページの表 4「卒業に必要な単位数」に示す通とおりであり、「教養教育科目群」から14単位以上修得する必要がある(選択必修)としています。しかしながら、説明箇所につきまして設置の趣旨等を記載した書類での説明が不適切であったため、以下のとおり修正いたします。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(16 ページ)

新	旧
<p>◆「教養教育科目群」</p> <p>現代人としての豊かな教養を学修し、あらゆる背景を持った多様な人々に対する高いコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>社会を構成する諸領域の中でも「観光」と密接な関係にある「文化・表象・宗教」「地域社会」「グローバリゼーションとエスニステイ」分野を中心に、1～2年次に23科目44単位を配置する。幅広い教養を身につけるといふ観点から必修科目は設定せず、<u>本科目群における開講科目から14単位以上修得すること(選択必修)</u>とする。</p> <p>(略)</p>	<p>◆「教養教育科目群」</p> <p>現代人としての豊かな教養を学修し、あらゆる背景を持った多様な人々に対する高いコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>社会を構成する諸領域の中でも「観光」と密接な関係にある「文化・表象・宗教」「地域社会」「グローバリゼーションとエスニステイ」分野を中心に、1～2年次に23科目44単位を配置する。幅広い教養を身につけるといふ観点から必修科目は設定せず、<u>すべて選択科目</u>とする。</p> <p>(略)</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(19 ページ)

新	旧
<p>⑤-3 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせ、4年間以上在学し、</p>	<p>⑤-3 卒業要件</p> <p>本学部の卒業要件は、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせ、4年間以上在学し、</p>

<p>以下の条件によって合計 124 単位以上の単位を修得することと設定している。</p> <p>(1) 基礎教育科目 40 単位以上(必修科目 26 単位、選択<u>必修</u>科目 14 単位以上)</p> <p>(2) 専門教育科目 60 単位以上(必修科目 20 単位以上、選択<u>必修</u>科目 40 単位以上)</p> <p>(3) 上記 2 科目区分の中から自由に選択する単位 20 単位以上</p> <p>(4) 卒業研究 4 単位(必修科目 4 単位)</p>	<p>以下の条件によって合計 124 単位以上の単位を修得することと設定している。</p> <p>(1) 基礎教育科目 40 単位以上(必修科目 26 単位、選択科目 14 単位以上)</p> <p>(2) 専門教育科目 60 単位以上(必修科目 20 単位以上、選択科目 40 単位以上)</p> <p>(3) 上記 2 科目区分の中から自由に選択する単位 20 単位以上</p> <p>(4) 卒業研究 4 単位(必修科目 4 単位)</p>
---	---

(審査意見以外による補正事項)観光学部 観光学科

15. アドミッション・ポリシー「AP5 (外国人留学生)外国籍を有し、外国において日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者で、上記 AP2～4 に加え、本学部での学修に必要な日本語能力を持つ者【知識・技能】」としているが、外国人留学生においてどのようにして基礎学力を担保しているかについて説明を追記する。

(対応)

外国人留学生を対象とした特別選抜「私費外国人留学生試験」では、日本語能力として日本留学試験 200 点以上、または日本語能力試験 N2 程度を出願条件に定めている。出願条件を満たしている受験生には、日本語による小論文と面接を課し当該学生の基礎学力を確認することとしている。

併せて、出願書類による確認を行うため、出願に際しては日本の高等学校に相当する学校での成績証明書を提出する。日本語、英語以外の言語で記載されたものについては、大使館、領事館等の公的機関の証明を受けた日本語訳(日本語学校に在籍している者は、日本語学校が証明する日本語訳でも可とする。)を必ず添付する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(25 ページ)

新	旧
<p>⑧ 入学者選抜の概要</p> <p>⑧-1 入学者選抜方法 (略)</p> <p>(4)特別選抜</p> <p>私費外国人留学生が本選抜を利用する場合、出願要件として日本語能力として日本留学試験 200 点以上、または日本語能力試験 N2 程度を定める。</p> <p>出願要件を満たしている受験生には、日本語による小論文と面接を課し、<u>当該学生の基礎学力、入学の目的意識の他、日本語の能力を改めて確認する</u></p> <p>併せて、出願時に日本の高等学校に相当する学校での成績証明書を提出する。<u>日本語、英語以外の言語で記載されたものについては、大使館、領事館等の公的機関の証明を受けた日本語訳(日本語学校に在籍している者は、日本語学校が証明する日本語訳でも可とする。)</u>を必</p>	<p>⑧ 入学者選抜の概要</p> <p>⑧-1 入学者選抜方法 (略)</p> <p>(4)特別選抜</p> <p>私費外国人留学生が本選抜を利用する場合、出願要件として日本語能力として日本留学試験 200 点以上、または日本語能力試験 N2 程度を定める。</p> <p>出願要件を満たしている受験生には、日本語による小論文と面接を課し、<u>入学の目的意識の他、日本語の能力を改めて確認する。</u></p>

<p><u>ず添付する。この成績証明書を基に本学部での学修に耐えうる基礎学力を有していることを確認する。</u></p> <p>また、留学生にとっては 4 年間の経済的な計画が入学に際して重要な項目となるため、出願時には経費支弁書を提出させ、それをもとに面接時に確認を行い、明確な回答が無かった場合は日本語教育機関等に問い合わせるなどの対処をする。</p>	<p>また、留学生にとっては 4 年間の経済的な計画が入学に際して重要な項目となるため、出願時には経費支弁書を提出させ、それをもとに面接時に確認を行い、明確な回答が無かった場合は日本語教育機関等に問い合わせるなどの対処をする。</p>
--	---

別添資料1 観光学部観光学科カリキュラムマップ

- DP1 実践的で高い英語力
- DP2 ICT能力や数理データサイエンス・AIに関する知識・技術
- DP3 社会の様々な現象を調査等により分析する能力
- DP4 人々が織りなす現実の社会について幅広い知識の獲得と理解
- DP5 医療と介護に関する基本的知識
- DP6 観光専門職としての実践的能力（状況への対応力を兼ね備える）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			担当教員名 *太字は専任教員	主要授業科目	ディプロマ・ポリシー					
			必修	選択	講義	演習	実験・実習			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
導入教育科目群	初年次教育	1①	1			○	(准教授)林				○	○		○	
	日本語表現	1②	1			○	(准教授)林					○			○
	情報リテラシー演習 I	1①	1			○	(兼任)山脇			○					
	情報リテラシー演習 II	1②	1			○	(兼任)山脇			○					
外国語教育科目群	英語総合1	1①	2		○		(准教授)竹内	●	◎						
	英語総合2	1②	2		○		(准教授)竹内	●	◎						
	英語総合3	1③	2		○		(准教授)竹内	●	◎						
	英語総合4	1④	2		○		(准教授)竹内	●	◎						
	英語コミュニケーション1	1①	1			○	(教授)ストロネル, (講師)ミドルトン, (講師)宮本	●	◎			○		○	
	英語コミュニケーション2	1②	1			○	(教授)ストロネル, (講師)ミドルトン, (講師)宮本	●	◎			○		○	
	英語コミュニケーション3	1③	1			○	(教授)ストロネル, (講師)ミドルトン, (講師)宮本	●	◎			○		○	
	英語コミュニケーション4	1④	1			○	(教授)ストロネル, (講師)ミドルトン, (講師)宮本	●	◎			○		○	
	English for Tourism 1	2①	2			○	(准教授)竹内	●	◎						○
	English for Tourism 2	2②	2			○	(准教授)竹内	●	◎						○
	英語演習1	2①		1		○	(准教授)竹内		○						○
	英語演習2	2②		1		○	(准教授)竹内		○						○
	英語演習3	2③		1		○	(准教授)竹内		○						○
	英語演習4	2④		1		○	(准教授)竹内		○						○
	英語演習5	3①		1		○	(准教授)竹内		○						○
	英語演習6	3①		1		○	(准教授)竹内		○						○
	中国語1	2③		1		○	(兼任)戴						○		○
	中国語2	2④		1		○	(兼任)戴							○	○
	語学短期留学	1休		1			○	(教授)薄山		○				○	
	中期留学	2・3休		4			○	(教授)薄山		○				○	
キャリア教育科目群	基礎インターンシップ I	1通	1			○	(准教授)山口, (講師)小川	●						○	◎
	基礎インターンシップ II	1通	1			○	(教授)清水	●							◎
	中期インターンシップ	2・3休	4			○	(教授)薄山, (教授)清水, (教授)足立, (准教授)神田, (准教授)山口, (講師)小川	●					○		◎
	観光におけるキャリア	2①		2		○	(准教授)神田								○
	観光分野での起業	2④		2		○	(准教授)神田								○
教養教育科目群	我々の時代の理解A	1②		2		○	(兼任)菅								◎
	我々の時代の理解B	1④		2		○	(兼任)菅								◎
	比較文化論	2②		2		○	(兼任)山口								◎
	ことばと文化・社会	2②		2		○	(教授)廣田								◎
	日本文学	2②		2		○	(講師)爪田								◎
	西洋文学	2③		2		○	(講師)爪田								◎
	日本・東洋思想	2④		2		○	(講師)爪田								◎
	西洋思想	2①		2		○	(講師)爪田								◎
	宗教学	2①		2		○	(教授)廣田								◎
	日本史	2②		2		○	(兼任)松村								◎
	日本文化史	2④		2		○	(兼任)松村								◎
	日本食文化	2①		2		○	(兼任)金城								◎
	文化人類学	2③		2		○	(教授)足立								◎
	心理学	2①		2		○	(兼任)近藤								◎
	経営学基礎A	2②		2		○	(准教授)神田								◎
	経営学基礎B	2④		2		○	(講師)小川								◎
	国際政治学入門	2③		2		○	(教授)薄山								◎
	国際経済学入門	2④		2		○	(講師)小川								◎
	宮古文化論	1③		2		○	(兼任)宮國								◎
	宮古島の環境と風土A	1③		2		○	(兼任)伊志嶺								◎
	宮古島の環境と風土B	1④		2		○	(兼任)三輪								◎
	空手・古武道	1①・②・③・④		1		○	(准教授)上地								◎
	くいちやー	1②		1		○	(兼任)中村								◎

別添資料1 観光学部観光学科カリキュラムマップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			担当教員名 *太字は専任教員	主要授業科目	ディプロマ・ポリシー								
			必修	選択	講義	演習	実験・実習			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6			
基盤科目群	社会学入門	1④	2		○			(兼任)菊池	●			◎						
	社会調査法Ⅰ	2②	2		○			(教授)足立	●			◎						
	社会調査法Ⅱ	2③	2		○			(兼任)菊池	●			◎						
	観光社会学	2①	2		○			(兼任)戸崎	●			○				◎		
	データサイエンスⅠ	2①	1			○		(兼任)渡邊			◎							
	データサイエンスⅡ	2②		1		○		(兼任)渡邊			○							
	データサイエンスⅢ	2③		1		○		(兼任)渡邊			○							
	AI基礎	2④		2		○		(兼任)山脇			○							
	基幹科目群	観光産業入門	1③	2		○			(准教授)神田	●							◎	
		ツーリズム論	2①	2		○			(准教授)山口	●							◎	
		観光企業研究Ⅰ	1④	2		○			(准教授)山口, (兼任)中村	●							◎	
		観光企業研究Ⅱ	2③~④	2		○			(兼任)岩瀬								○	
		観光地理学A	2・3②	2		○			(兼任)重永					○			○	
		観光地理学B	2・3④	2		○			(兼任)重永					○			○	
		観光と食	2・3③	2		○			(兼任)金城								○	
		大使館観光局ゲスト講義	3①~②	2		○			(教授)薄山		○							○
		リスクマネジメント	2・3③	2		○			(兼任)岡田									○
		広報・マスコミ対応	2・3④	2		○			(准教授)神田, (准教授)林									○
		観光関連法規	2・3④	2		○			(講師)小川									○
		観光メディア論	2・3②	2		○			(准教授)山口									○
		人体の構造と機能	1①	2		○			(兼任)中村									○
		東洋医学入門	1②・③・④	2		○			(兼任)中村									○
		公衆衛生学	2②	2		○			(兼任)岸野	●								◎
		介護の基本	2③	2		○			(兼任)大久保									○
メディカルツーリズム論		2・3④	2		○			(兼任)戸崎									○	
観光医療Ⅰ		3①	2		○			(兼任)野坂									○	
観光医療Ⅱ		3②	2		○			(兼任)野坂									○	
ホスピタリティ		2・3②	2		○			(教授)清水									○	
地域ボランティア		1通	1			○		(兼任)井上					○				◎	
エコツーリズム/サステイナブルツーリズム		1②~③	2		○			(兼任)春川									○	
ユニバーサルツーリズム		3②	2		○			(兼任)北見									○	
世界のトップアスリート		2③	2		○			(准教授)林						○			○	
ヘルスツーリズム領域	ヘルスツーリズム概論	3①	2		○			(教授)足立, (兼任)菊池	●								◎	
	ウェルネスツーリズム論	3③	2		○			(准教授)山口	●								◎	
	東洋医学概論	3①	2		○			(兼任)内野									○	
	健康と疾病の理解	3①	2		○			(兼任)小幡									○	
	伝統医療論	3②	2		○			(教授)足立									○	
	養生身体文化論	3②	2		○			(教授)足立									○	
	食と健康	3③	2		○			(兼任)三本谷									○	
	東洋医学刺激療法	3③	2		○			(兼任)内野									○	
	機能回復	3④	2		○			(兼任)小原									○	
	薬膳	3④	2		○			(兼任)熊野									○	
	地域経営(観光)領域	地域学入門	3①	2		○			(教授)信時	●								◎
		地域まちづくり(講義)	3②	2		○			(教授)信時	●								◎
地域まちづくり(演習)		3④~休	2			○		(教授)信時				○					○	
地域コミュニティ創造支援論		3③	2		○			(教授)信時									○	
地域行政研究		3③	2		○			(教授)信時									○	
地域経済論		3④	2		○			(兼任)岡田									○	
ホテル・ブライダル領域	ホテル文化論	3①	2		○			(教授)清水	●								◎	
	ホテルビジネス論	3②	2		○			(教授)清水									○	
	飲食産業論	3③	2		○			(教授)清水									○	
	ブライダル	3③	2		○			(教授)清水	●								◎	
エアライン領域	リゾートビジネス	3④	2		○			(教授)清水									○	
	エアライン・マネジメント	3①	2		○			(教授)丹治	●								◎	
	航空経営論	3③	2		○			(教授)丹治	●								◎	
	交通産業論	3④	2		○			(教授)丹治									○	
	航空産業論	3①	2		○			(講師)小川									○	
	国際交通論	3②	2		○			(講師)小川									○	
卒業研究	卒業研究	4通	4			○		(教授)丹治, (教授)薄山, (教授)清水, (教授)信時, (教授)足立, (准教授)神田, (准教授)山口, (講師)小川, (講師)爪田	●	○	○	○	○	○	○	○		

☆:それぞれの領域における主要な授業科目